



『わたしのおにいちゃん!』

くすのきしげのり／作 大島妙子／絵 光村教育図書 2023
きょうは しゅうぎょうしき。ユキは いえに もって かえる にもつが いっぱいです。そこで、だいすきな おにいちゃんを こうもんで まっていました。たすけてくれると おもっていたからです。きょうだいの しんらいや ささえあいを かんじることが できる おはなしです。



『うみのたからもの』

たかおゆうこ／作 加瀬友喜／監修 講談社 2023
てのひらに のせた かいがらに じっと みみを すませると、みえてくるのは どんな けしきでしょうか。ふかい うみの そこや たくさんの ほしぞらに イルカの おれまで。かいがらが おしえてくれるのは そうぞうの なかの うつくしい うみの せかいです。 



『すいぞくかんの おいし屋さん』

大塚美加／ぶん 齋藤慎／え 福音館書店 2023
すいぞくかんの おいしさんが、すいそうの なかの いきもの の ようすを みてまわっています。あるとき、ししくがかりの ひとが あわてて やってきました。まだらエイの ようすが おかしいようです。おいしさんは、いきものたちの ところへ おかいます。



『おばあちゃんの にわ』

ジョーダン・スコット／文 シドニー・スミス／絵 原田勝／訳 偕成社 2023
うまく ことばを しゃべれない おばあちゃんは、みぶりや てぶり、さわったり わらったりして、いいたいことを ぼくに つたえます。やさいの そだてかたや、あめのひに ミミズを つかまえて にわには なつと やさいが たくさん できることなども、おしえてくれました。



『トットちゃんの 15つぶの だいず』

黒柳徹子／原案 柏葉幸子／文 松本春野／絵 講談社 2023
トットちゃんが しょうがく 2ねんせい のとき、せんそうが ありました。たべるものや きるものが なくなり、パパも せんそうに いってしまいました。あるひ、おかあさんに だいずを 15つぶ わたされませんが、よるまで すこし のこさなければ なりません。

2024

なつのはほん



このブックリストは出版者の許可を得て表紙を掲載しています。
2024年7月

発行: 宮崎県立図書館 児童図書室(こどもしつ)

電話: (0985) 29-2596



『プリンちゃんのなつやすみ』

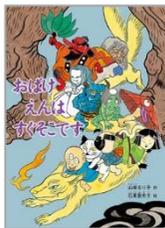
なかがわちひろ／ぶん たかおゆうこ／え 理論社 2023
なつやすみに かぞく みんなで うみへ おでかけです。きらきら、さらさら、おさどうの すなはま。ひんやり しゅわしゅわ そーだの うみ。おなかが すいたら おべんとう。なかみは ぜんぶ おかします。よるも おたのしみが いっぱいです。



『あめがふってきたよ』

メアリー・サーフオン／文 ケイコ・ナラハシ／絵 木坂涼／訳 徳間書店 2023

ぽつ ぽつ あめが ふってきたよ。かわいた みちに あめが あなをあけると、つちの においが ひろがります。とんぴちゃ。かさを ひらいて あめの おとを きいてみると、いろいろな リズムに、むねが はずみます。あめの ひが たのしくなる おはなしです。



『おばけえんはすぐそこです』

山崎り子／詩 石黒垂矢子／絵 福音館書店 2023

おばけたちが かよう おばけえん。ろくろっぴの なわとびに、カッパの ダンス。からかさおばけにトラブル はっせい! おばけたちが くりひろげる たのしくて ちょっぴり こわい おばけえん。その いりぐちは あなたの すぐ そばに あるかもしれませんよ。



『たいふうこぐま』

おくやまゆか／作 ほるぷ出版 2023

やまの なかに まるで たいふうの ように おおさわぎする こぐまが すんでいました。あるひ、やまの ふもとに すむ きの いい ミックさんが たいふうが くることを こぐまに しらせました。こぐまは、さかなどりに いく といって やまの なかへ かえってしまいました。



『ぼくらはたけ』



マーガレット・ワイズ・ブラウン／作 イーディス・サッチャー・ハード／作 ガートルード・エリオット／絵 木坂涼／訳 好学社 2023

ちいさな ふたりが むかうのは はたけです。いろいろな やさいの たねを まき、たいせつに そだてます。きせつの うつりかわりの なかで、やさいは すくすくと せいちょうして、いよいよ しゅうかくです。さくもつをつくる よろこびが つたわる おはなしです。



『そらうみ』

富安陽子／文 はぎのたえこ／絵 講談社 2023

あつい なつのひ、プールに いくために ぼくは てくてく さかを のぼります。すると、みちは にゆうどうぐもの なかに つづいていて、ふしぎな そらの せかいが ひろがって いました。そらの うみに とびこんで もぐると、ぼくの まちが したに みえます。



『おまつり』

森洋子／作 福音館書店 こどものとも社 2023

おまつりに きていたとき、あめが ふってきて、めの まえに かみなりが おちました。すると そこに とらもようの パンツを はき、あたまに ツノがある おとこのこが いました。かみなりの こどもです。「そらに かえりたい」と ないていました。



『コブシメがやってきた!』

高久至／写真・文 アリス館 2023

やくしまの うみのなか。ふかさ 10メートルのところに コブシメが います。あしが 10ぼんで、からだの ながさは おおきくて 50センチもある おおきな イカです。てきから みを まもったり、えものに ちかづいたり するために へんしんすることができます。

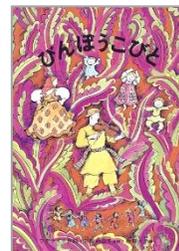


『おばあちゃんちのふしぎなまど えほんで名画』



シビル・ドラクロワ／さく 石津ちひろ／やく ほるぷ出版 2023

おんなのこは なつになると おばあちゃんちの いえで すごします。でも、いつも びっくりすることが おきるのです。まどをあけると、ひろがるのは あらしの ジャングルや うちよせる おおなみ。でも この けしき、なんだか みたことがあるような きがします。



『びんぼうこびと ウクライナ民話』

内田莉莎子／再話 太田大八／画 福音館書店 こどものとも社 2024

ある むらに あさから ばんまで はたらく おひやくしょうが いました。しかし、なにを しても うまく いかず、むら いちばんの びんぼうに いました。あるひ、めずらしく たべもの を もちかえり よろこんでいると、ちいさく やせっぽちの こびとを みつけました。